

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒210-8527
 住 所 川崎市川崎区駅前本町3番地1
 氏 名 川崎アゼリア株式会社
 代表取締役社長 木場田 文夫 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	川崎アゼリア株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区駅前本町26番地2		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	69	不動産賃貸業・管理業
主たる事業 の内容	主として店舗の賃貸管理及び広告業、物品販売等の事業並びに地下駐車場・公共地下歩道の管理運営等の事業を行っている。		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		4,309 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	施設管理部
		所在地	川崎市川崎区駅前本町26番地2
		電話番号	044-233-7223
		FAX番号	044-222-1409
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 8,262 (調) 6,779 t-CO ₂	(実) 8,281 (調) 6,820 t-CO ₂	(実) 7,296 (調) 6,074 t-CO ₂	(実) 7,303 (調) 6,063 t-CO ₂	(実) 8,126 t-CO ₂
削減率		(実) -0.2 (調) -0.6 %	(実) 11.7 (調) 10.4 %	(実) 11.6 (調) 10.6 %	(実) 1.6 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	延床面積		単位	t-CO ₂ /m ²	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.1452	0.1455	0.1282	0.1283	0.1428
削減率		-0.2 %	11.7 %	11.6 %	1.6 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	夏の酷暑に伴う空調負荷の増大に対し、6月～9月のピーク時間調整契約に対応するため、13：00～16：00に冷温水発生機を運転して対応したことにより、都市ガスの使用量が前年度に比較し12%増加し-0.2%の削減となった
第2年度	3月に発生した東日本大震災の発生に伴い、駐車場給排気ファンの停止、冷暖房運転の見直しを行ったことにより、電力の使用量が16.4%削減となった。一方都市ガスの使用量については、冬場の外気温が低かった事から、14.9%の増加となった。全体として11.7%のCO ₂ 削減となった
第3年度	東日本大震災の影響も薄れ、照明の減灯等も徐々に震災前に戻しつつある中、駐車場給排気ファンの更なる運用変更、空調機の間欠運転、空調機インバーターの最大出力抑制設定等を行い、電力は1.5%増、都市ガスについては約5.9%の削減を達成し、温室効果ガスの排出量及び原単位とも昨年度比-0.1%とほぼ横ばいであったが、基準年度比では3年間の省エネ対策により排出量及び原単位とも11.6%の大幅削減を達成した。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	別紙のとおり
	第1年度	別紙のとおり
	第2年度	別紙のとおり
	第3年度	別紙のとおり
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

<p>事業所等（第1号、第2号、第4号該当者等）</p>	<p>計 画</p>	<p>1. アゼリア基本対策 (1) 川崎市の「事業活動地球温暖化対策指針」に基づき、社内全体での推進体制を整備する。 (2) 温室効果ガスの排出削減対策を推進するための対策責任者の設置を行うとともに役割分担を明確にする。 (3) 毎年の温室効果ガスの排出の量を把握し、整理・分析を行いその結果を社内に情報共有する体制を整備する。 (4) 熱源機器及び空調機器等の主要な設備をはじめとして、温室効果ガス排出量抑制を図る為、定期的に管理基準を見直し削減に向けた改善を行う。 (5) エネルギー使用量、燃料使用量等、温室効果ガスの排出の量と密接に関係をもつ数量の使用量及びその負荷変動を管理し、過去の実績との比較及び分析を行う。 (6) エネルギー使用量又は温室効果ガスの排出量の管理指標として、エネルギー消費原単位又は温室効果ガスの排出量原単位を算出し、管理する。 (7) 空気調和設備を構成する熱源設備、熱搬送設備、空気調和機設備の機設備の管理は、外気条件の季節変動等に応じ、冷却水温度や冷温水温度、圧力等の設定により、空気調和設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行う。 (8) アゼリアの熱源設備については、使用するエネルギーの種類異なる複数の熱源機で構成されているので、外気条件の季節変動や負荷変動等に応じ、稼働台数の調整又は稼働機器の選択により熱源設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行う。 (9) 熱搬送設備が複数のポンプで構成されている場合は、季節変動等に応じ、稼働台数の調整又は稼働機器の選択により熱搬送設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行う。</p> <p>2. 目標対策 (1) 地下街出入口のエアカーテン設置 (2) 冷却水ポンプのインバータ化 (3) 省エネVベルトの採用</p>
	<p>第一年度</p>	<p>1. アゼリア基本対策 (1) 川崎市の「事業活動地球温暖化対策指針」に基づき、社内全体での推進体制を整備した。 (2) 温室効果ガスの排出削減対策を推進するための対策責任者の設置を行うとともに役割分担を明確にした。 (3) 毎年の温室効果ガスの排出の量を把握し、整理・分析を行いその結果を社内に情報共有する体制を整備した。 (4) 熱源機器及び空調機器等の主要な設備をはじめとして、温室効果ガス排出量抑制を図る為、定期的に管理基準を見直し削減に向けた改善を行なった。 (5) エネルギー使用量、燃料使用量等、温室効果ガスの排出の量と密接に関係をもつ数量の使用量及びその負荷変動を管理し、過去の実績との比較及び分析を行なった。 (6) エネルギー使用量又は温室効果ガスの排出量の管理指標として、エネルギー消費原単位及び温室効果ガスの排出量原単位を算出し、管理した。 (7) 空気調和設備を構成する熱源設備、熱搬送設備、空気調和機設備の機設備の管理は、外気条件の季節変動等に応じ、冷却水温度や冷温水温度、圧力等の設定により、空気調和設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行なった。 (8) アゼリアの熱源設備については、使用するエネルギーの種類異なる複数の熱源機で構成されているので、外気条件の季節変動や負荷変動等に応じ、稼働台数の調整又は稼働機器の選択により熱源設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行なった。 (9) 熱搬送設備が複数のポンプで構成されている場合は、季節変動等に応じ、稼働台数の調整又は稼働機器の選択により熱搬送設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行なった。</p>

<p>事業所等（第1号、第2号、第4号該当者等）</p>	<p>第二年度</p>	<p>1. アゼリア基本対策</p> <p>（1）地球温暖化対策の取組を継続的で効果的な活動とするため、社内全体での推進体制を確立した。</p> <p>（2）管理標準に記載のなかったスクリー冷凍機を追記すると共に温室効果ガス排出量抑制を図る為、管理標準の見直しと改善を図った。</p> <p>（3）エネルギー使用量、燃料使用量等、温室効果ガスの排出の量と密接に関係をもつ数量の使用量及びその負荷変動を管理し、過去の実績との比較及び分析を行なった。</p> <p>（4）エネルギー使用量又は温室効果ガスの排出量の管理指標として、エネルギー消費原単位及び温室効果ガスの排出量原単位を算出し、管理した。</p> <p>（5）空気調和設備を構成する熱源設備、熱搬送設備、空気調和機設備の機設備の管理は、外気条件の季節変動等に応じ、冷却水温度や冷温水温度、圧力等の設定により、空気調和設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行なった。</p> <p>（6）アゼリアの熱源設備については、使用するエネルギーの種類異なる複数の熱源機で構成されているので、外気条件の季節変動や負荷変動等に応じ、稼働台数の調整又は稼働機器の選択により熱源設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行った。</p> <p>（7）熱搬送設備が複数のポンプで構成されているので、季節変動等に応じ、稼働台数の調整又は稼働機器の選択により熱搬送設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行なった。</p>
<p>事業所等（第1号、第2号、第4号該当者等）</p>	<p>第三年度</p>	<p>1. アゼリア基本対策</p> <p>（1）地球温暖化対策の取組を継続的で効果的な活動とするため、社内全体での推進体制を確立した。</p> <p>（2）管理標準に記載のなかったスクリー冷凍機を追記すると共に温室効果ガス排出量抑制を図る為、管理標準の見直しと改善を図った。</p> <p>（3）エネルギー使用量、燃料使用量等、温室効果ガスの排出の量と密接に関係をもつ数量の使用量及びその負荷変動を管理し、過去の実績との比較及び分析を行なった。</p> <p>（4）エネルギー使用量又は温室効果ガスの排出量の管理指標として、エネルギー消費原単位及び温室効果ガスの排出量原単位を算出し、管理した。</p> <p>（5）空気調和設備を構成する熱源設備、熱搬送設備、空気調和機設備の機設備の管理は、外気条件の季節変動等に応じ、冷却水温度や冷温水温度、圧力等の設定により、空気調和設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行なった。</p> <p>（6）アゼリアの熱源設備については、使用するエネルギーの種類異なる複数の熱源機で構成されているので、外気条件の季節変動や負荷変動等に応じ、稼働台数の調整又は稼働機器の選択により熱源設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行った。</p> <p>（7）熱搬送設備が複数のポンプで構成されているので、季節変動等に応じ、稼働台数の調整又は稼働機器の選択により熱搬送設備の総合的なエネルギー効率を向上させるように管理を行なった。</p> <p>（8）出入口5箇所エアカーテンを導入し、施設内の冷温熱源の流出の防止をはかった。</p> <p>（9）空調機を間欠運転することにより電力の消費抑制をはかった。</p> <p>（10）空調機のインバーターの最大出力の抑制を行い、消費電力削減をはかった。</p> <p>（11）第1期計画期間では、熱源設備及び空調設備の運転の最適化、エネルギー消費原単位及び温室効果ガス排出量を基とした数値の管理を行い、エネルギー効率の向上を図った。またエアカーテンを設置し、外気からの熱負荷の遮断をはかり、第1期活動期間を通して11.6%の温室効果ガスの削減を達成した。</p>

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	特になし
第1年度	特になし
第2年度	特になし
第3年度	特になし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	・ 廃棄物の減量化、分別化の推進
第1年度	・ 廃棄物の減量化、分別化の推進を行った。
第2年度	・ 廃棄物の減量化、分別化の推進を行った。
第3年度	・ 廃棄物の減量化、分別化の推進を行った。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	7,966	t-CO ₂
(調)	7,952	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎地下街アゼリア	川崎市川崎区駅前本町26番地2	6911	貸事務所業	7,953 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	1

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--